



農作業メモ

水稻 今後の管理について

気象庁の予報では、今夏は高温となる見込みです。気象情報に十分注意し、高温対策をしっかり行いましょう。

1 水管理

適正な水管理を行うことが高温対策の基本となります。

農業用水は取水量、取水時期ともに制約があることから、かけ流しは行わず、有効に利用しましょう。

(1) 中干し

無効分げつの抑制や健全な根の維持のため、中干しを行いましょ。

田植え後30日頃を目安に、茎数が1株あたり20本程度となったら実施します。期間は7〜10日間前後、田面に小ひびが入り、歩いて足跡が付くくらいが目安です。

(2) 出穂期前後・登熟期間

穂肥施用後は水分を必要とするため湛水状態を保ち、出穂期前後それぞれ

約7日間は深水管理を実施します。穂揃い後は、1週間サイクルで湛水と落水を繰り返す(例えば4日間湛水後、3日間落水) 間断かん水とします。気温が高く、高温障害が懸念される時は、夕方以降に入水を行うことで、田面温度を下げるができます。

2 穂肥

肥料分が減少するにつれ、葉の色が薄くなり黄化してきます。葉色が低下すると高温障害を受けやすくなります。高温障害軽減のため、ほ場をよく観察し、適正な穂肥を実施します。

穂肥は出穂前20〜25日を目安に生育診断(葉色や幼穂長)に基づいて行います。品種やほ場条件によって施肥量や施用時期を調整してください。

肥料切れにより一度葉色が極端に低下してしまうと、その後穂肥を施用しても、葉色が戻るまでに時間がかかります。

ます。稲体の消耗も激しくなり子実の外観品質の低下を招きます。また、遅い穂肥は食味低下も招くため、適期の実施を心がけましょう。

表 主な品種の穂肥施用時期と施肥量の目安

品 種 名	移植期	穂 肥	
		施用時期	施用量 窒素成分/10a
キヌヒカリ	6月23日	7月28日頃 (出穂前20~23日)	2kg
彩のきずな	6月23日	7月22日頃 (出穂前25日)	2kg
彩のかがやき	6月23日	7月31日頃 (出穂前25日)	2kg

(穂肥の施用時期は、平成30年埼玉県主要農作物奨励品種特性表の出穂期平年値を参考に算出しました。今後の気象条件やほ場条件により、この日付から変動することがあります。)

3 病害虫防除

(1) 稲こうじ病

出穂前の多雨と出穂後の高温が多発条件となります。生産物に被害粒や被害粒が混入すると検査で規格外となり、経済的に大きな影響をもたらします。発病後の防除ができないため、前年に本病が多発したほ場では、出穂前の薬剤散布による予防を行います。粗選機による除去も効果的です。

(2) 紋枯病

水際の葉鞘に淡褐色・楕円形の病斑が現れます。進行すると病斑が葉身や穂まで広がり、収量・品質が低下します。密植や過剰分げつによる株内の多湿や高温、窒素過多で発生が増えます。昨年本病が発生したほ場や「彩のきずな」などの分げつが多い品種では、適切な中干しによる過剰分げつの防止や幼穂形成期から穂ばらみ期にかけての薬剤防除を行いましょ。

(大里農林振興センター 農業支援部)